

高温条件下でも品質の優れる水稲品種「くまさんの力」の育成

○藤井康弘・三ツ川昌洋・上野育夫<sup>1)</sup>  
(熊本農研セ・<sup>1)</sup>高原農業研究所)

【目的】

熊本県は、平坦地域を中心に「ヒノヒカリ」、  
「森のくまさん」等良食味中生品種が栽培され、これら両品種の作付比率は県全体の64%を占めている。しかし近年、気候の温暖化により、これらの品種に乳白、基白、背白等の白未熟粒の発生が多くみられ、上位等級率の低下が著しい状況にある。このため生産地域から高温条件下でも白未熟粒が発生しにくい品種の導入が要望されていた。そこで、既存の品種と同等の食味と栽培特性を持ち、高温条件下でも良質の「くまさんの力」を育成したので報告する。

【育成経過】

「くまさんの力」は、1998年に熊本県農業研究センター農産園芸研究所作物部において、良食味の中生種「ヒノヒカリ」を母とし、良質多収の早生種「北陸174号」を父として人工交配を行った雑種に由来する品種である。人工交配の翌年、F<sub>1</sub>の蒔を蒔培養し、再生個体から穂系統(A<sub>1</sub>)を得て、2001年以降選抜を図った。2003年(A<sub>2</sub>)から「く系A44」の系統番号で生産力検定試験及び特性検定試験に、2005年(A<sub>3</sub>)からは「熊本A49号」の系統名で奨励品種決定調査本調査及び現地調査に供試し、地域適応性を検討した。その結果、2008年3月に熊本県における奨励品種に採用された。

【主要特性】

草型は中稈の偏穂重型で、「ヒノヒカリ」に比べて稈長は5 cm程度短く、穂長は長く、穂数はやや少ない。稈の太さは‘やや太’、稈質は‘中’である。止め葉はよく立ち、粒着密度は‘中’で、少程度に‘やや短’の芒を有する。

出穂期は「ヒノヒカリ」より1日、成熟期が2日程度遅く‘中生の中’に属する。耐倒伏性は「ヒノヒカリ」より強い‘中’、穂発芽性は‘やや難’、脱粒性は‘難’である。収量性は「ヒノヒカリ」とほぼ同等である。いもち病抵抗性遺伝子は‘Pia, Pii’をもつと推定され、圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちともに「ヒノヒカリ」並の‘やや弱’である。白葉枯病抵抗性は‘弱’である。

玄米の形状は‘中’、粒大は‘中’で、玄米千粒重は「ヒノヒカリ」より1 g程度重い。玄米品質は「ヒノヒカリ」より優れ、高温条件下でも白未熟粒の発生は少ない。食味は「ヒノヒカリ」と同等の‘上中’である。

【適地と栽培上の留意点】

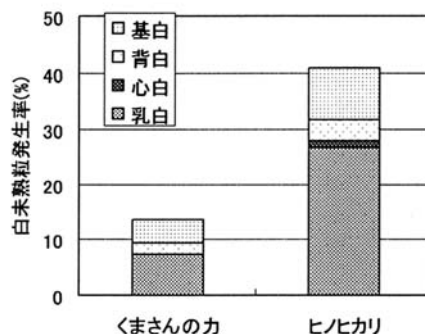
白葉枯病に弱いので、常発地での栽培をさける。また、いもち病抵抗性は十分でないので、防除を徹底する。

第1表 「くまさんの力」の特性概要

品種名	くまさんの力	ヒノヒカリ
早晚性	中生の中	中生の中
草型	偏穂重型	偏穂重型
出穂期(月・日)	8.27	8.26
成熟期(月・日)	10.14	10.12
稈長(cm)	77	82
穂長(cm)	22.5	20.2
穂数(本/m <sup>2</sup> )	332	359
芒の多少・長短	やや少・やや短	稀・短
ふ先色	黄白	黄白
ふ色	黄白	黄白
脱粒性	難	難
穂発芽性	やや難	難
耐倒伏性	中	やや弱
葉いもち (抵抗性遺伝子)	やや弱 (Pia・Pii)	やや弱 (Pia・Pii)
穂いもち	やや弱	やや弱
白葉枯病	弱	やや弱
玄米重(kg/a)	52.4	50.1
同上標準比(%)	105	100
玄米千粒重(g)	23.8	22.5
玄米品質	3.8	5.5
食味	上-中	上-中

注1) 育成地における2003~2007年の標肥栽培での成績

注2) 玄米品質は1(上上)~4(中中)~9(下下)の9段階評価



第1図 高温条件下での「くまさんの力」の品質

注) 2005年試験結果。ポットに1本植。出穂後35日間、昼温35℃夜温25℃に調整した温室に投入した。